

## 2. 医学部・医学研究科

### 1) 教務部関係

#### (1) 平成18年度 年間行事予定表

1 年	
4月7日(金)	オリエンテーション
4月9日(日)	入学式
4月10日(月)	前期授業開始
5月31日(水)	健康診断(ツ反)(4時限休講)
6月2日(金)	健康診断(4時限休講)
6月28日(水)	普通救命講習
7月21日(金)	前期授業終了
7月24日(火)～7月29日(土)	前期定期試験期間①
7月31日(月)～8月4日(金)	病院実習
8月7日(月)～9月8日(金)	夏季休業期間
9月11日(火)～9月15日(金)	前期定期試験期間②
9月19日(月)～9月22日(金)	再試験自習期間
9月25日(月)～9月29日(金)	前期再試験期間
10月2日(月)	後期授業開始
12月22日(金)	後期授業終了
12月25日(月)～1月5日(金)	冬季休業期間
1月22日(月)～2月3日(土)	学年末定期試験期間
2月5日(月)～2月16日(金)	再試験自習期間
2月19日(月)～2月23日(金)	学年末再試験期間
2月26日(月)～3月31日(土)	春季休業期間

2 年	
4月3日(月)	オリエンテーション
4月3日(月)	前期授業開始
6月2日(金)	健康診断(4時限休講)
7月7日(金)	前期授業終了
7月10日(月)～7月22日(土)	前期定期試験期間①
7月24日(月)～9月8日(金)	夏季休業期間
9月11日(月)～9月16日(土)	前期定期試験期間②
9月19日(火)	後期授業開始
10月20日(金)	慰霊祭(3・4・5時限休講)
12月25日(月)～1月5日(金)	冬季休業期間
1月19日(金)	後期授業終了
1月22日(月)～1月26日(金)	自習期間
1月29日(月)～2月3日(土)	学年末定期試験期間
2月5日(月)～2月9日(金)	再試験自習期間
2月13日(火)～2月17日(土)	学年末再試験期間
2月19日(月)～3月30日(金)	春季休業期間

3 年	
4月3日(月)	オリエンテーション
4月3日(月)	前期授業開始
6月2日(金)	健康診断(5時限休講)
6月26日(月)～6月30日(金)	薬理学実習
6月30日(金)	前期授業終了
7月3日(月)～7月7日(金)	自習期間
7月10日(月)～7月22日(土)	前期定期試験期間
7月24日(月)～8月25日(金)	夏季休業期間
8月28日(月)	後期授業開始
10月20日(金)	慰霊祭(3・4・5時限休講)
10月23日(月)～10月27日(金)	看護実習
12月26日(月)～1月6日(金)	冬季休業期間
2月3日(土)	後期授業終了
2月5日(月)～2月10日(土)	自習期間
2月13日(火)～2月16日(金)	学年末定期試験期間
2月19日(月)～2月23日(金)	自習期間
2月26日(月)～3月2日(金)	学年末再試験期間
3月5日(月)～3月30日(金)	春季休業期間

4 年	
4月3日(月)	オリエンテーション
4月3日(月)	前期授業開始
6月1日(木)	健康診断(4時限休講)
7月21日(金)	前期授業終了
7月24日(月)～8月25日(金)	夏季休業期間
8月28日(月)	後期授業開始
9月11日(月)～9月15日(金)	法医学実習
11月2日(木)	後期授業終了
11月6日(月)～11月10日(土)	自習期間
11月13日(月)～12月9日(土)	学年末定期試験期間
12月11日(月)	臨床総論講義開始
12月25日(月)～1月5日(金)	冬季休業期間
1月9日(火)～1月13日(土)	学年末再試験期間
2月5日(月)	臨床総論講義終了
2月6日(火)・2月7日(水)	共用試験
2月6日(火)～2月23日(金)	臨床診断トレーニング
2月24日(土)	OSCE
2月26日(月)	共用試験再試験
2月27日(火)～3月30日(金)	春季休業期間

5 年	
4月3日(月)	オリエンテーション
4月3日(月)	BSL・講義開始
6月2日(金)	健康診断(3時限休講)
8月7日(月)～8月25日(金)	夏季休業期間
10月20日(金)	慰霊祭(3・4・5時限休講)
12月25日(月)～1月5日(金)	冬季休業期間
1月12日(金)	公衆衛生学・医療科学V本試験
2月10日(土)	BSL終了
2月19日(月)	総合試験(BSL)本試験1日目
2月20日(火)	総合試験(BSL)本試験2日目
2月21日(水)～2月28日(水)	再試験自習期間
2月26日(月)	総合試験(BSL)再試験1日目
2月27日(火)	総合試験(BSL)再試験2日目
3月1日(木)	公衆衛生学・医療科学V再試験
3月2日(金)～3月30日(金)	春季休業期間

6 年	
4月3日(月)	オリエンテーション
4月3日(月)	前期授業開始
5月15日(月)～5月19日(金)	地域医療実習
5月22日(月)	臨床総合演習講義開始
6月1日(木)	健康診断(4時限休講)
6月5日(月)～7月29日(土)	クリニカルクラークシップ
7月31日(月)～8月25日(金)	夏季休業期間
10月14日(土)	卒業試験 OSCE
10月20日(金)	臨床総合演習講義終了
10月20日(金)	医師国家試験受験手続説明会
10月23日(月)～11月10日(金)	自習期間
11月13日(月)	総合試験本試験1日目
11月15日(水)	総合試験本試験2日目
11月17日(金)	総合試験本試験3日目
11月20日(月)～12月8日(金)	自習期間
12月11日(月)	総合試験再試験1日目
12月13日(水)	総合試験再試験2日目
12月15日(金)	総合試験再試験3日目
12月18日(月)～1月6日(金)	冬季休業期間
1月9日(火)～3月2日(金)	自習期間
3月6日(月)～3月22日(木)	春季休業期間
3月16日(金)	卒業式

全 学 年 共 通			
4月9日(日)	入学式	2月1日(木)	一般入学試験(1次試験)
5月1日(月)～5月5日(金)	臨時休業期間	2月7日(水)	一般入学試験(2次試験)
10月28日(土)	杏祭	2月16日(金)・17日(土)	センター利用入学試験(個別学力検査)
11月11日(土)	創立記念日	3月16日(金)	卒業式

## (2) 学年別科目等一覧

学年	授 業 科 目 等
1 年	医療科学 A (医療と文化, 心理学, 病院実習, 臨床医学入門) 生物学 (入門生物学, 生物学, 生物学実習) 生体化学 (入門化学, 生体化学, 生体化学実習) 医学物理学 (入門物理学, 医学物理学 A, 医学物理学 B, 医学物理学実習) プレチュートリアル, 分子生物学および分子生物学実習, 代謝学 A および代謝学 A 実習 英語 A (英語 A I, 英語 A II) *ドイツ語 A (ドイツ語 A I, ドイツ語 A II) *フランス語 A (フランス語 A I, フランス語 A II) *スペイン語 A (スペイン語 A I, スペイン語 A II) A I 休講 *中国語 A (中国語 A I, 中国語 A II)
2 年	肉眼解剖学および肉眼解剖学実習, 組織解剖学および組織解剖学実習 統合生理学および統合生理学実習, 細胞生理学および細胞生理学実習 感染と防御および感染と防御実習, 細胞生物学 代謝学 B 英語 B (英語 B I, 英語 B II) *ドイツ語 B (ドイツ語 B I, ドイツ語 B II) *フランス語 B (フランス語 B I, フランス語 B II) *スペイン語 B (スペイン語 B I, スペイン語 B II) B I 休講 *中国語 B (中国語 B I, 中国語 B II)
3 年	医療科学 B および看護実習, 医学統計学, チュートリアル, 薬理学および薬理学実習, 病理学総論および病理学総論実習, 熱帯病・寄生虫学および寄生虫学実習, 衛生学および衛生学実習, 統合カリキュラム 臨床医学総論, 神経, 呼吸器, 消化器, 内分泌・代謝, 血液 医学英語 A (医学英語 A I・医学英語 A II)
4 年	臨床総論 I・臨床総論 II, 臨床診断トレーニング, 医療科学 IV, 病理学各論および病理学各論実習, 法医学, 法医学実習, 高齢医学, 精神神経科学, 小児科学, 小児外科学, 救急医学, 脳神経外科学, 心臓血管外科学, 整形外科, リハビリテーション医学, 皮膚科学, 形成外科学, 泌尿器科学, 眼科学, 耳鼻咽喉科頭頸部外科学, 産科婦人科学, 放射線医学, 麻酔科学, 臨床検査医学 *医学英語 II
5 年	医療科学 V, 公衆衛生学, CPC,BSL
6 年	クリニカルクラークシップ I, クリニカルクラークシップ II 臨床総合演習 (コース別集中講義)

\*印は自由選択科目

## 2) 学生部関係

### (1) 健康診断

平成18年度定期健康診断実施件数

#### 【医学部】

実施日 H18.5.31~6.2	学生数	実施者数				未実施者		備考
		内科	胸部X-P	※耳鼻科	※眼科	内科	胸部X-P	
M 1	95	89	82	14	13	6	13	
	100.00%	93.68%	86.32%	14.74%	13.68%	6.32%	13.68%	
M 2	101	78	75	4	8	23	26	
	100.00%	77.23%	74.26%	3.96%	7.92%	22.77%	25.74%	
M 3	90	49	49	2	1	41	41	
	100.00%	54.44%	54.44%	2.22%	1.11%	45.56%	45.56%	
M 4	95	67	66	0	5	28	29	
	100.00%	70.53%	69.47%	0.00%	5.26%	29.47%	30.53%	
M 5	89	61	63	4	1	28	26	
	100.00%	68.54%	70.79%	4.49%	1.12%	31.46%	29.21%	
M 6	93	92	92	92	92	1	1	
	100.00%	98.92%	98.92%	98.92%	98.92%	1.08%	1.08%	
計	563	436	427	116	120	127	136	
	100.00%	77.44%	75.84%	20.60%	21.31%	22.56%	24.16%	

※ M1～M5は希望者。

#### 【大学院】

	学生数	実施者数					備考
		内科	胸部X-P	耳鼻科	眼科	血液検査	
春季健診 (5/23~26) (特殊健診)	72	12	0	7	8	15	
	100.00%	16.67%	0.00%	9.72%	11.11%	20.83%	
秋季健診 (11/7~9 11/16,17)	70	22	16	8	10	21	
	100.00%	31.43%	22.86%	11.43%	14.29%	30.00%	

※ 大学院生は職員健康診断で実施

## (2) クラブ活動

## 平成18年度 医学部クラブ・同好会一覧表

No	体育系 クラブ名	総員	学部別人数内訳						顧問 部長名	学生代表	部室	火元責任者
			医	看	保	社	外	総				
1	準硬式野球部	10	10						杉山 政則	渡邊 晃秀	207	渡邊 晃秀
2	サッカー部	33	27	6					高橋 信一	金 栄智	213	金 栄智
3	アイスホッケー部	19	13	4		1	1		大野 秀樹	中村 雄	110	宮田宏太郎
4	柔道部	15	15						松田 剛明	仲吉 範真	206	高澤 百代
5	剣道部	6	6						平井 直樹	林 智彦	123	林 智彦
6	少林寺拳法部	26	26						松村 譲児	林 智彦	221	林 智彦
7	ウェイトトレーニング部	44	44						岡島 康友	佐藤 明	105	諸井 威彦
8	バレーボール部	18	18						石田 均	片岡 功	205	片岡 功
9	バスケットボール部	47	38	9					里見 和彦	島田 大輔	224・123	島田 大輔
10	ラグビー部	24	22	2					似鳥 俊明	谷本 祐之	215	谷本 祐之
11	陸上競技部	18	18						甲能 直幸	槇之浦法仁	106	槇之浦法仁
12	バドミントン部	44	22	22					葦澤 融司	舛田 一樹	108・212	舛田 一樹
13	端艇部 (ボート)	39	30		6		2	1	塩川 芳昭	渡辺 太郎	130・128	加藤 晴子
14	水泳部	25	16	9					樋田 哲夫	佐賀 俊文	210	佐賀 俊文
15	競技スキー部	15	15						佐藤 喜宣	木村 郷	209	木村 郷
16	硬式庭球部	35	30	5					須藤 憲一	百瀬 裕一	124	田村 恵美
	125											
17	軟式庭球部	39	28	8	3				呉屋 朝幸	新井 健介	231	新井 健介
	225											
18	ゴルフ部	30	30						島崎 修次	桜井健太郎	122	富永 尚宏
19	アーチェリー部	29	29						鳥羽 研二	榊原 温志	217	榊原 温志
20	自転車部	12	12						平野 浩一	幡野 翔	127	幡野 翔
21	釣り部	41	37	4					平井 直樹	落合 剛二	129	落合 剛二
22	ボウリング部	16	16						佐藤 喜宣	榊原 温志	218	榊原 温志
23	空手同好会	8	8						早川 和人	桐渕 英人	219	桐渕 英人
24	スキューバダイビング同好会	9	9						佐藤 喜宣	川村 雄剛	なし	
25	エクササイズ同好会	6	6						神谷 茂	久保田 舞	なし	
		0										
計		608	525	69	9	1	3	1				

No	文科系 クラブ名	総員	学部別人数内訳						顧問 部長名	学生代表	部室	火元責任者
			医	看	保	社	外	総				
1	美術同好会	6	6						平野 浩一	岡田 大輔	218	岡田 大輔
2	棋道部	13	13						須藤 憲一	宮田宏太郎	126	柳田 佳史
3	軽音楽部	35	34	1					川上 速人	川口 恵子	232	川口 恵子
4	管弦楽団	56	26	27	1			2	川上 速人	下田 真史	109・220	下田 真史
5	SF 研究会	8	8						竹内 義雄	島田 大輔	107	島田 大輔
6	電子工学研究会	5	5						信川 益明	島田 大輔	115	島田 大輔
7	合唱部	17	11	6					誉田 晴夫	鮫島 圭	214	鮫島 圭
8	ESS 部	37	37						神谷 茂	川又 久永	226	川又 久永
計		177	140	34	1	0	0	2				

### (3) 奨学金

平成18年度 医学部日本学生支援機構奨学生

	第一種奨学金 (無利子貸与)	第二種奨学金 (有利子貸与)	合計
1年生	6	7	13
2年生	3	7	10
3年生	4	17	21
4年生	3	17	20
5年生	3	14	17
6年生	2	14	16
合計	21	76	97

\*併用貸与はそれぞれの人数に含む。

## 3) 教員の業績

## (1) 主な研究業績

## 解剖学教室 (第一)

## Anatomy I

1. Borke J.L.<sup>1</sup>, Amano K, Miyake K<sup>1</sup> & McNeil P.L.<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Medical College of Georgia, Augusta, USA) : Activation of Gene Expression by Toothbrushing-induced Cell Wounding. 85<sup>TH</sup> General Session & Exhibition of the IADR/AADR/CADR, New Orleans, Louisiana, Mar. 21-24, 2007.
2. 松村讓児：パネルディスカッション. 杏林大学医学部におけるコメディカル解剖学実習. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪, 平成19年3月27-29日.
3. 曾爾彊<sup>1</sup>, 大谷 修<sup>2</sup>, 金澤英作<sup>3</sup>, 佐々木宏<sup>4</sup>, 正村静子<sup>5</sup>, 杉本哲夫<sup>6</sup>, 鳥越甲順<sup>7</sup>, 松村讓児 (<sup>1</sup>名古屋市立大院・医研・生体機能・機能形態・制御形態, <sup>2</sup>富山大・医・解剖, <sup>3</sup>日本大松戸・歯・解剖, <sup>4</sup>東京女子医大・医・解剖, <sup>5</sup>岐阜大院・医研・解剖, <sup>6</sup>関西医科大・解剖2, <sup>7</sup>東海大・医・解剖学) : シンポジウム. 医学・歯学教育での人体解剖学実習の必要性. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪, 平成19年3月27-29日.
4. Shiraishi N : Levels of Formaldehyde, Phenol and Ethanol in Dissection Room Air and Measures for Reduction. JJOMT 54 : 1-10, 2006.
5. 松村讓児 : イラスト解剖学. 第5版. 東京, 中外医学社, 2007.

## 解剖学教室 (第二)

## Anatomy II

1. Endo Y, Yamazaki S, Moriyama N, Li Y, Ariizumi T, Kudo A, Kawakami H, Tanaka Y, Horita S, Yamada H, Seki G & Fujita T : Localization of NBC1 variants in rat kidney. Nephron Physiol 104 : 87-94, 2006.
2. Akimoto Y, Hart GW, Wells L, Vosseller K, Yamamoto K, Munetomo E, Ohara-Imaizumi

M, Nishiwaki C, Nagamatsu S, Hirano H & Kawakami H : Elevation of the post-translational modification of proteins by O-linked N-acetylglucosamine leads to deterioration of the glucose-stimulated insulin secretion in the pancreas of diabetic Goto-Kakizaki rats. Glycobiology 17 : 127-140, 2007.

3. Ishii M, Tachiwana T, Hoshino A, Tsunekawa N, Hiramatsu R, Matoba S, Kanai-Azuma M, Kawakami H, Kurohmaru M & Kanai Y : Potency of testicular environment to support spermatogenesis in XX/Sry transgenic male mice. Development 134 : 449-454, 2007.
4. 高田邦昭, 斎藤尚亮, 川上速人 (編集) : 染色・バイオイメージング実験ハンドブック. 東京, 羊土社, 2006.
5. 坂井建雄, 川上速人 (監訳) : ジュンケイラ組織学 第2版. 東京, 丸善, 2007.

## 統合生理学教室

## Integrative Physiology

1. Johansson RS, Theorin A, Westling G, Andersson M, Ohki Y, Nyberg L : How a lateralized brain supports symmetrical bimanual tasks. PLoS Biol. 4 (6) : e158, 2006.
2. Isa T, Ohki Y, Seki K, Alstermark B : Properties of propriospinal neurones in the C3-C4 segments mediating disynaptic pyramidal excitation to forelimb motoneurons in the macaque monkey. J Neurophysiol. 95 (6) : 3674-85, 2006.
3. Yagi J, Wenk HN, Naves LA & McCleskey EW : Sustained currents through ASIC3 ion channels at the modest pH changes that occur during myocardial ischemia. Circ Res 99 (5) : 501-509, 2006.
4. 八木淳一, 小林 靖, 平井直樹 : 全動物標本による後根神経節ニューロンパッチクランプ記録法. 痛み研究のアプローチ. 河谷正仁編.

- 東京, 真興交易医書出版, 2006. p 112-119.
5. 大木 紫 (共訳): 泰羅雅登, 中村克樹 (監訳), カールソン神経科学テキスト (8版). 東京, 丸善株式会社, 2006.

### 細胞生理学教室

#### Cell Physiology

1. Fujiwara T, Mishima T, Kofuji T<sup>1</sup>, Chiba T<sup>2,3</sup>, Tanaka K<sup>2</sup>, Yamamoto A<sup>3</sup> and Akagawa K (<sup>1</sup>Department of Radio Isotope Laboratory Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Molecular Oncology Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>3</sup>Department of Cell Biology Nagahama Institute of Bio-Science and Technology): Analysis of Knock-Out Mice to Determine the Role of HPC-1/Syntaxin 1A in Expressing Synaptic Plasticity. *The Journal of Neuroscience* 26 (21): 5767-5776, 2006.
2. Iijima T<sup>1</sup>, Mishima T, Akagawa K, Iwao Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Anesthesiology Kyorin University School of Medicine): Neuroprotective effect of propofol on necrosis and apoptosis following oxygen-glucose deprivation-Relationship between mitochondrial membrane potential and mode of death. *Brain Reserch* 1099 (1): 25-32, 2006.

### 生化学教室 (第一)

#### Biochemistry I

1. Hayashi Y, Tahara Y, & Takenaka H: Isolation and Characterization of Tetraprotomeric and Diprotomeric Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase. *Mol. Mech. and Reg. in Cation Transport ATPases and Related Genetic Diseases (Satellite Meeting for 20<sup>th</sup> IUBMB Internat. Cong. of Biochem. and Mol. Biol.)*, 京都, 2006年6月17日.
2. Tahara Y, Kawasaki K<sup>1</sup>, Nishikawa K<sup>2</sup>, Shiokawa K<sup>2</sup>, Fujiyoshi Y<sup>2</sup> & Hayashi Y (<sup>1</sup>Natl. Inst. of Advanced Ind. Sci. and Technol., <sup>2</sup>Dept. of Biophys., Fac. of Sci., Kyoto Univ. Grad. Sch.) : Oligomeric Structure of Pig Kidney

Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase: Electron Microscopic Studies. *Mol. Mech. and Reg. in Cation Transport ATPases and Related Genetic Diseases (Satellite Meeting for 20<sup>th</sup> IUBMB Internat. Cong. of Biochem. and Mol. Biol.)*, 京都, 2006年6月16-18日.

3. Homareda H: Interaction of Oligomycin with Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase. *Mol. Mech. and Reg. in Cation Transport ATPases and Related Genetic Diseases (Satellite Meeting for 20<sup>th</sup> IUBMB Internat. Cong. of Biochem. and Mol. Biol.)*, 京都, 2006年6月16-18日.
4. Tanoue K<sup>1</sup>, Kaya S<sup>1</sup>, Hayashi Y, Abe K<sup>1</sup>, Imagawa T<sup>1</sup>, Taniguchi K<sup>1</sup> & Sakaguchi K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Biol. Chem., Div. of Chem., Fac. of Sci., Hokkaido Univ.): New Evidence for ATP Binding Induced Catalytic Subunit Interactions in Pig Kidney Na/K-ATPase. *J.Biochem.* 140: 599-607, 2006.
5. Fujii Y<sup>1</sup>, Khoshnoodi J<sup>2</sup>, Takenaka H, Ho-soyamada M<sup>3</sup>, Nakajo A<sup>4</sup>, Bessho F<sup>4</sup>, Kudo A<sup>5</sup>, Takahashi S<sup>6</sup>, Arimura Y<sup>1</sup>, Yamada A<sup>1</sup>, Nagasawa T<sup>1</sup>, Ruotsalainen V<sup>7</sup>, Tryggvason K<sup>8</sup>, Lee AS<sup>9</sup> & Yan K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Int. Med., Kyorin Univ. Sch. of Med., <sup>2</sup>Dept. of Med., Div. of Nephrology and hypertension, Vanderbilt Univ. Sch. of Med., <sup>3</sup>Dept. of Toxicology and Pharmacology, Kyorin Univ. Sch. of Med., <sup>4</sup>Dept. of Pediatrics, Kyorin Univ. Sch. of Med., <sup>5</sup>Dept. of Anat., Kyorin Univ. Sch. of Med., <sup>6</sup>Dept. of Pediatrics, Nihon Univ., <sup>7</sup>Bio-center Oulu and Dept. of Biochem., Univ. of Oulu, <sup>8</sup>Dept. of Med. Biochem. and Biophys., Div. of Matrix Biol., Karolinska Inst., <sup>9</sup>Dept. of Biochem. and the Norris Cancer Res. Inst., Univ. of Southern California Sch. of Med.): The effect of dexamethasone on defective nephrin transport caused by ER stress: A potential mechanism for the therapeutic action of glucocorticoids in the acquired glomerular diseases. *Kidney International* 69: 1350-1359, 2006.

## 生化学教室 (第二)

## Biochemistry II

1. 永松信哉 (シンポジウム): 画像解析法による糖尿病でのインスリン分泌不全機構 (シンポジウム 2 膵β細胞機能解析の新しい展開), 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 平成18年5月24-26日.
2. Nagamatsu S, Ohara-Imaizumi M, Nakamichi Y, Kikuta T, Nishiwaki C: maging docking and fusion of insulin granules induced by antidiabetes agents: sulfonylurea and glinide drugs preferentially mediate the fusion of newcomer, but not previously docked, insulin granules. *Diabetes*. 2006 Oct; 55 (10): 2819-25.
3. Ohara-Imaizumi M, Nagamatsu S: Insulin exocytotic mechanism by imaging technique. *J Biochem (Tokyo)*. 2006 Jul; 140 (1): 1-5. Review.
4. Nagamatsu S: TIRF microscopy analysis of the mechanism of insulin exocytosis. *Endocr J*. 2006 Aug; 53 (4): 433-40. Epub 2006 Jun 27. Review.
5. 今泉美佳, 永松信哉: インスリン顆粒開口放出とその異常. 分子糖尿病学の進歩—基礎から臨床まで—2006, 矢崎義雄編. 東京, 10-19, 金原出版, 2006.

## 薬理学教室

## Pharmacology

1. Shigeta Y, Kanai Y, Chairoungdua A, Ahmed N, Sakamoto S, Matsuo H, Kim DK, Fujimura M, Anzai N, Mizoguchi K, Ueda T, Akakura K, Ichikawa T, Ito H & Endou H: A novel missense mutation of SLC7A9 frequent in Japanese cystinuria cases affecting the C-terminus of the transporter. *Kidney Int*. 69: 1198-206, 2006.
2. Noshiro R, Anzai N, Sakata T, Miyazaki H, Terada T, Shin HJ, He H, Miura D, Inui K, Kanai Y & Endou H: The PDZ domain protein PDZK1 interacts with human peptide transporter PEPT2 and enhances its trans-

port activity. *Kidney Int*. 70: 275-82, 2006.

3. Nawashiro H, Otani N, Shinomiya N, Fukui S, Ooigawa H, Shima K, Matsuo H, Kanai Y & Endou H: L-type amino acid transporter 1 as a potential molecular target in human astrocytic tumors. *Int. J. Cancer* 119: 484-492, 2006.
4. Anzai N, Kanai Y & Endou H: New insights into renal transport of urate. *Curr Opin Rheumatol*. 19: 151-157, 2007.
5. Shin HJ, Anzai N, Enomoto A, He X, Kim do K, Endou H & Kanai Y: Novel liver-specific organic anion transporter OAT7 that operates the exchange of sulfate conjugates for short chain fatty acid butyrate. *Hepatology* 45: 1046-1055, 2007.

## 病理学教室

## Pathology

1. 平野和彦, 宍戸一原由紀子, 藤原正親, 菊地文史, 山下暁子, 海野みちる, 坂本穆彦, 藤岡保範, 菅間 博: Gastrointestinal stromal tumor (GIST) における stem cell factor (SCF) の発現. 第95回日本病理学会総会, 東京, 平成18年4月30日-5月2日.
2. Chinen K, Kurosumi M<sup>1</sup>, Ohkura Y, Sakamoto A, Fujioka Y (<sup>1</sup>Department of Pathology, Saitama Cancer Center): Sudden unexpected death in patients with malignancy: A clinicopathologic study of 28 autopsy cases. *Pathol Res Pract* 202: 869-875, 2006.
3. Fujiwara M, Kamma H, Wu W<sup>1</sup>, Yano Y<sup>1,2</sup>, Homma S<sup>1,2</sup>, Satoh H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Inst of Basic Med Sci, Univ of Tsukuba, <sup>2</sup>Inst of Clin Med, Univ of Tsukuba): Alternative lengthening of telomeres in the human adrenocortical carcinoma cell line H295R. *Int J Oncol* 29: 445-51, 2006.
4. 坂本憲彦, 飯原久仁子, 坂本穆彦: 女性生殖器. 病理と臨床 24 (臨時増刊): 311-314, 2006.
5. 坂本穆彦: 病理検査・病理診断—組織診と細胞診. 標準臨床検査医学. 第3版. 東京, 医



学書院, 2006. p 308-316.

#### 感染症学教室 (微生物学)

Infectious Disease/Division of  
Medical Microbiology

1. 神谷 茂: 感染症と環境—VNC の病原的意義. Bacterial Adherence & Biofilm 第20回記念学術集会, 教育講演, 東京, 平成18年7月7-8日.
2. Osaki T, Hanawa T, Manzoku T, Fukuda M, Kawakami H, Suzuki H, Yamaguchi H, Xu Yen, Taguchi H, Kurata S & Kamiya S: Mutation of *luxS* affects motility and infectivity of *Helicobacter pylori* in gastric mucosa of a Mongolian gerbil model. J Med Microbiol 55: 1477-1485, 2006.
3. Kamoda O, Anzai K, Mizoguchi J, Yanagi T, Shioiri M, Nishio T & Kamiya S: *In Vitro* antibacterial of a novel antimicrobial TG44 for treatment of *Helicobacter pylori* infection. Antimicrob Agents Chemothe 50: 3062-3069, 2006.
4. Bii CC, Kose J, Taguchi H, Amukoye E, Ouko TT, Muita LC, Mugasia O, Wamae N & Kamiya S: Pneumocystis jirovecii and microbiological findings in children with severe pneumonia in Nairobi, Kenya. Int J Tuberc Lung Dis 10: 1286-1291, 2006.
5. Bii CC, Makimura K, Abe S, Taguchi H, Mugasia OM, Revathi G, Wamae CN & Kamiya S: Antifungal drug susceptibility of *Cryptococcus neoformans* from clinical sources in Nairobi, Kenya. Mycoses 50: 25-30, 2007.

#### 感染症学教室 (寄生虫学)

Infectious Disease/Division of  
Tropical Diseases and Parasitology

1. Kobayashi F, Waki S<sup>1</sup>, Niikura M<sup>2</sup>, Tachibana M<sup>3</sup>, Tuboi T<sup>4</sup>, Torii T<sup>3</sup>, Kamiya S. (<sup>1</sup>Gunma prefect. Coll. Hlth. Sci., <sup>2</sup>Inst. lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., <sup>3</sup>Dept. Mol. Parasitol., Ehime Univ. Schl. Med., <sup>4</sup>Cell-Free Sci. Tech. Res. Cent., Ehime Univ.) *Plasmodium berghei*

XAT: Protective 155/160kDa antigens are located in parasitophorous vacuoles of schizont-stage parasite. Exp Parasitol, Epub 2007 Mar 7. (in press)

2. Matsuo T, Cerruto Noya CA<sup>1</sup>, Taylor D<sup>2</sup> & Fujisaki K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, <sup>2</sup>Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba): Immunohistochemical examination of PDGF-AB, TGF- $\beta$  and their Receptors in the Hemocytes of a Tick, *Ornithodoros moubata* (Acari: Argasidae). J. Vet. Med. Sci. 69 (3): 317-320, 2007.
3. Fujino T, Matsuo T, Okada M and Matsui T: Detection of a small number of *Cryptosporidium parvum* oocysts by sugar floatation and sugar centrifugation methods. J. Vet. Med. Sci. 68 (11): 1191-1193, 2006.
4. 松井利博: イヌとネコの Isospor 属コクシジウムの生物学的特性について. 動物の原虫病 21(1): 1-9, 2006.
5. 藤野隆志, 松井利博: 関東地域におけるイヌとネコのコクシジウム症の調査. 動物の原虫病 21(1): 18-21, 2006.

#### 衛生学公衆衛生学教室

Preventive Medicine and Public Health

1. Miyazaki M, Hitomi Y, Kizaki T, Ohno H, Katsumura T, Haga S & Takemasa T: Calcineurin-mediated slow-type fiber expression and growth in reloading condition. Med Sci Sports Exerc 38: 1065-1072, 2006.
2. Ohno H: Commemorative lecture: The role of exercise in an interaction between oxidative stress and lifestyle-related diseases. The Commemorative Lecture Meeting Awarded a Doctor Honoris Causa by Semmelweis University, Budapest, Nov. 2, 2006.
3. Moriguchi H, Uemura T & Sato C: The MEGA study —The optimal statinbased therapy as primary prevention of cardiovascular disease in low-risk individuals with moderate

- hypercholesterolaemia— . Lancet . 368 (9552) : 2052, 2006.
4. Yoshida M, Takashima Y, Inoue M, Iwasaki M, Otani T, Sasaki S & Tsugane S for the JPHC Study Group: Prospective study showing that dietary vitamin C reduced the risk of age-related cataracts in a middle-aged Japanese population. Eur J Nutr 46: 118-124, 2007.
  5. 高島 豊: 疫学の理論と実践. 高島 豊編. 東京, 杏林書院, p. 1-128, 2007.

### 法医学教室

#### Legal Medicin

1. 佐藤喜宣: 特別講演. 小児虐待のリスク管理社会制度のあり方. 日本予防医学リスクマネージメント学会. 平成18年5月. 東京
2. 佐藤喜宣: シンポジウム. 「シンポジウム: 虐待児の診断と対応について」被虐待児の創傷と診断— 第20回日本小児救急医学会. 平成18年6月. 茨城
3. 佐藤喜宣: 特別講演・一般公開講座. 臨床法医学から見た虐待症候群. 第48回全日本病院学会徳島大会. 平成18年11月.
4. Takashino S, Sato Y, Takagi T, Yoshida M, Kajiwara M, Aoyagi K and Yoshida T.: The Practice of Embalming after Forensic Autopsies. Res. Pract. Forens. Med. 49. 247-251. 2006.
5. Hanaoka Y, Ueno A, Tsuzuki T, Kajiwara M, Minaguchi K, Sato Y: Proposal for internet-based Digital Dental Chart for personal dental identification in forensics. Forens. Sci. Int. 57-69. 2007.

### 共同研究施設フローサイトメトリー部門

#### Joint Research Center/Division of Flowcytometry

1. Inaoka M<sup>1</sup>, Kimishima M<sup>1</sup>, Takahashi R, Shiohara T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Non-steroidal anti-inflammatory drugs selectively inhibit cytokine production by NK cells and gamma delta T cells. Exp Dermatol, 15: 981-990, 2006.
2. Katsuta M<sup>1</sup>, Takigawa Y<sup>1</sup>, Kimishima M<sup>1</sup>, Inaoka M<sup>1</sup>, Takahashi R, Shiohara T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Dermatology): NK cells and gamma delta+T cells are phenotypically and functionally defective due to preferential apoptosis in patients with atopic dermatitis. J Immunol, 176: 7736-7744, 2006.
3. Shiohara T<sup>1</sup>, Takahashi R, and Kano Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome and Viral Reactivation. Drug Hypersensitivity. Basel, Karger, 2007. p. 224-239.
4. Takahashi R, Mizukawa Y<sup>1</sup>, and Shiohara T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Dermatology): (口演) Dynamic balance between Fuc T-IV and Fuc T-VII is a major check point for the regulation of skin-homing CD4<sup>+</sup>T cell differentiation. The 31st annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, May 31-June 2, 2006, Kyoto.
5. Takahashi R: (招待講演). Recent flow cytometric analysis; cytometric beads array (CBA). Lunch Talk in International College, Mahidol University, Feb 20, 2007, Bangkok, Thailand.

### 共同研究施設 放射性同位元素部門

#### Joint Research Center/Division of Radio Isotope Laboratory

1. 井原 智: 第62回日本放射線技術学会学術大会モーニングセミナー「放射線防護の考え方—法規制と利用現場」. 平成18年4月9日. 横浜市.
2. 井原 智: 第23回医療放射線の安全利用研究会フォーラム「医療放射線関係法令における行政手続法の役割」. 平成18年9月8日. 東京.
3. 井原 智: 第42回医療放射線管理講習会「放射線診療施設における放射線安全管理規制とは」. 平成18年10月14日. 大阪市.
4. 井原 智: 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部放射線安全講習会「チェルノブイリ原

発事故, JCO 臨界事故, ブラジルにおける Cs-137 被曝事故等について」平成18年11月27日. 相模原市.

共同研究施設 蛋白質・核酸解析部門

Joint Research Center/Division of  
Protein and Nucleic Acid Research

1. Tsuji K, Yamauchi K, Yang M, Jiang P, Bouvet M, Endo H, Kanai Y, Yamashita K, Moossa AR & Hoffman RM: Dual-color imaging of nuclear-cytoplasmic dynamics, viability, and proliferation of cancer cells in the portal vein area. *Cancer Res* 66: 303-306, 2006.
2. Shigeta Y, Kanai Y, Chairoungdua A, Ahmed N, Sakamoto S, Matsuo H, Kim DK, Fujimura M, Anzai N, Mizoguchi K, Ueda T, Akakura K, Ichikawa T, Ito H & Endou H: A novel missense mutation of SLC7A9 frequent in Japanese cystinuria cases affecting the C-terminus of the transporter. *Kidney Int.* 69: 1198-1206, 2006.
3. Nagamatsu S, Ohara-Imaizumi M, Nakamichi Y, Kikuta T & Nishiwaki C: Imaging Docking and Fusion of Insulin Granules Induced by Antidiabetes Agents: Sulfonylurea and Glinide Drugs Preferentially Mediate the Fusion of Newcomer, but Not Previously Docked, Insulin Granules. *Diabetes* 55: 2819-2825, 2006.
4. Fujii Y, Khoshnoodi J, Takenaka H, Hosoymada M, Nakajo A, Bessho F, Kudo A, Takahashi S, Arimura Y, Yamada A, Nagasawa T, Ruotsalainen V, Tryggvason K, Lee AS & Yan K: The effect of dexamethasone on defective nephrin transport caused by ER stress: A potential mechanism for the therapeutic action of glucocorticoids in the acquired glomerular diseases. *Kidney Int* 69: 1350-1359, 2006.
5. Ushimaru M & Fukushima Y: Synthesis of ATP by the simple addition of ADP to the p-nitrophenylphosphate-prepared phosphoen-

zyme of the sarcoplasmic reticulum Ca<sup>2+</sup>-ATPase. *Biochem. Biophys. Res. Comm.* 353: 799-804, 2007.

共同研究施設 生体機能実験部門

Joint Research Center/Division of  
System Physiology

1. Yu W, Akishita M, Xi H, Nagai K, Sudoh N, Hasegawa H, Kozaki K, Toba K: Angiotensin converting enzyme inhibitor attenuates oxidative stress-induced endothelial cell apoptosis via p38 MAP kinase inhibition. *Clin Chim Acta* 364 (1-2): 328-334, 2006.
2. Iijima T: Mitochondrial membrane and ischemic neuronal death. *Neurosci Res* 55: 234-243, 2006.
3. Sato H, Yazawa T, Suzuki T, Shimoyamada H, Okudera K, Ikeda M, Hamada K, Yamada-Okabe H, Yao M, Kubota Y, Takahashi T, Kamma H, Kitamura H: Growth regulation via insulin-like growth factor binding protein-4 and -2 in association with mutant K-ras in lung epithelia. *Am J Pathol.* 169 (5): 1550-66, 2006.
4. Itoh A, Ueno E, Tohno E, Kamma H, Takahashi H, Shiina T, Yamakawa M, Matsumura T. Breast disease: clinical application of US elastography for diagnosis. *Radiology* 239 (2): 341-50. 2006.
5. Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M, Koshino T, Matsushima S, Furuyashiki G, Takei H, Koshiishi Y, Goya T, Watanabe T: Abnormalities of epidermal growth factor receptor in Lung squamous-cell carcinomas, adenocarcinomas, and large-cell carcinomas tyrosine kinase domain mutations are not rare in with an adenocarcinoma component. *Cancer* 109: 741-50, 2007.

内科学教室 (第一)

Internal Medicine I

[呼吸器]

1. Saraya T, Shimura C, Wada H, Aoshima M,

- Goto H: Evidence for vascular spread of varicella zoster-associated vasculopathy. *Ann Intern Med* 144: 535-537, 2006.
2. Kachi S, Okazaki M, Takeda H, Igarashi H, Kobayashi O, Watanabe H, Nakata K, Kawai S, Aoshima M, Watanabe T, Goto H: Outbreak of *Nocardia farcinica* infection with the same pattern in randomly amplified polymorphic DNA analysis. *J Hosp Infect* 62: 502-506, 2006.
  3. Oishi K, Yoshimine H, Watanabe H, Watanabe K, Tanimura S, Kawakami K, Iwagaki A, Nagai H, Goto H, Kudoh S, Kuriyama T, Fukuchi Y, Matsushima T, Shimada K, Matsumoto K, Nagatake T: Drug-resistant genes and serotypes of pneumococcal strains of community-acquired pneumonia among adults in Japan. *Respirology* 11: 429-436, 2006.
  4. Qin L, Watanabe H, Yoshimine H, Guio H, Watanabe K, Kawakami K, Iwagata A, Nagai H, Goto H, Kuriyama T, Fukuchi Y, Matsushima T, Kudoh S, Shimada K, Matsumoto K, Nagatake T, Mizota T, Oishi K: Antimicrobial susceptibility and serotype distribution of *Streptococcus pneumoniae* isolated from patients with community-acquired pneumonia and molecular analysis of multidrug-resistant serotype 19F and 23F strains in Japan. *Epidemiol Infect* 134: 1188-1194, 2006.
  5. Sakai F, Tokuda H, Goto H, Tateda K, Johkoh T, Nakamura H, Matsuoka T, Fujita A, Nakamori Y, Aoki S, Ohdama S: Computed tomographic features of *Legionella pneumophila* pneumonia in 38 cases. *J Comput Assist Tomogr* 31: 125-131, 2007.
- topes in the ocular motor nerves. The 8th International Congress of Neuroimmunology, Oct. 15-19, 2006, Nagoya.
2. Hiroshi Many, Aturo Chiba, Richard U. Margolis, and Tamao Endo: Molecular cloning and characterization of rat Pomt1 and Pomt2. *Glycobiology* 16: 863-873, 2006.
  3. Ito T, Kijima M, Watanabe T, Sakuta M & Nishiyama K: Ultrasonography of the tibial nerve in vasculitic neuropathy. *Muscle Nerve* 35: 379-382, 2007.
  4. 千葉厚郎, 内堀 歩: 単クローン性 $\gamma$ グロブリン異常症に伴うニューロパチーの治療は. EBM 神経疾患の治療. 岡本幸市, 棚橋紀夫, 水澤英洋編. 東京, 中外医学社, 2007. p. 356-359.
  5. 西山和利: サルコイドーシスの神経・筋病変に関する最近の動向—特に診断基準の見直しをめぐって. *Annual Review 神経* 2007. 東京. 中外医学社. 2007. p. 46-58.

## 内科学教室 (第一)

## Internal Medicine I

## 〔腎・膠原病〕

1. Fujii Y, Khoshnoodi J, Takenaka H, Hosoymada M, Nakajo A, Bessho F, Kudo A, Takahashi S, Arimura Y, Yamada A, Nagasawa T, Ruotsalainen V, Tryggvason K, Lee AS, Yan K, The effect of dexamethasone on defective nephrin transport caused by ER stress: A potential mechanism for the therapeutic action of glucocorticoids in the acquired glomerular diseases. *Kidney Int.* 69 (8): 1350-1359, 2006.
2. Koji H, Yamada A, Nagasawa T, Gamou S: DMRT-1 expression during NEC8 human embryonic carcinoma cell differentiation. *Cancer Sci.* 97 (4): 277-282, 2006.
3. Hayakawa S, Nakabayashi K, Karube M, Arimura Y, Soejima A, Yamada A, Fujioka Y: Tubulointerstitial immune complex nephritis in a patient with systemic lupus erythematosus: role of peritubular capillaritis with im-

## 内科学教室 (第一)

## Internal Medicine I

## 〔神経〕

1. Atsuro Chiba: Evening seminar: Recent progress in Guillain-Barré syndrome. *Glycoepi-*

mune complex deposits in the pathogenesis of the tubulointerstitial nephritis. *Clin Exp Nephrol*. 10 : 146-151, 2006.

4. Endo T, Nakabayashi K, Sekiuchi M, Kuroda T, Soejima A, Yamada A: Matrix metalloproteinase-2, matrix metalloproteinase-9, and tissue inhibitor of metalloproteinase-1 in the peripheral blood of patients with various glomerular diseases and their implication in pathogenetic lesions: study based on an enzyme-linked assay and immunohistochemical staining. *Clin Exp Nephrol* 10 : 253-261, 2006.
5. 中林公正: 微小変化ネフローゼ症候群. 内科学. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編. 東京, 医学書院, 2006. P. 1770-1773.

#### 内科学教室 (第二)

##### Internal Medicine II

1. 吉野秀朗: (招待シンポジスト), Evaluation of Myocardial Viability for Coronary Revascularization. Aorto-coronary Bypass Surgery and Stent Therapy. 第2回国際心臓血管科学アカデミー, 平成18年7月16日, 札幌.
2. Ikeda T, Abe A, Yusu S, Nakamura K, Ishiguro H, Mera H, Yotsukura M, Yoshino H: The full stomach test as a novel diagnostic technique for identifying patients at risk of Brugada syndrome. *J Cardiovasc Electrophysiol* 17 : 602-607, 2006.
3. Ikeda T, Yoshino H, Sugi K, Tanno K, Shimizu H, Watanabe J, Kasamaki Y, Yoshida A, Kato T: Predictive value of microvolt T-wave alternans for sudden cardiac death in patients with preserved cardiac function after acute myocardial infarction: Results of a collaborative cohort study. *J Am Coll Cardiol* 48 : 2268-2274, 2006.
4. Taniyai S, Koide Y, Yotsukura M, Nishimura T, Kachi E, Sakata K, Yoshino H: A new application of the ST-HR loop to evaluate the exercise-induced reversible ischemia in healed anterior wall myocardial infarction.

*Am J Cardiol* 93 : 346-351, 2006.

5. 池田隆徳: 各種不整脈の診断と治療: 心臓性急死・Adams-Stokes発作. エキスパートをめざす循環器診療「不整脈」(井上 博, 増山 理編), 南江堂, 東京, 2006, pp 221-232.

#### 内科学教室 (第三)

##### Internal Medicine III

1. 高橋信一: (教育講演) 消化管 MALT リンパ腫/悪性リンパ腫の治療. 日本消化器病学会関東支部第9回教育講演会. 平成18年11月5日. 東京.
2. Sakamoto C, Sugano K, Ota S, Sakaki N, Takahashi S, Yosida Y, Sakurai Y, Yoshino J, Mizokami Y, Mine T, Arakawa T, Kuwayama H, Saigenji K, Yakabi K, Chiba T, Shimosegawa T, Sheehan JE, Gutthann SP, Yamaguchi T, Kaufman DW, Sato T, Kubota K, Terano A: Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan. *Eur J Clin Pharmacol* 62 : 765-772, 2006.
3. Nezu S, Tanaka A, Yasui H, Imamura M, Nakajima H, Ishida H & Takahashi S: Presence of antimitochondrial autoantibodies in patients with autoimmune hepatitis. *J of Gastroenterol Hepatol* 21 : 1448-1454, 2006.
4. Nakamura M, Murayama SY, Serizawa H, Sekiya Y, Takahashi S, Nishikawa K, Takahashi T, Matsumoto T, Yamada H, Hibi T, Tsuchimoto K, Matsui H: "Candidatus *Helicobacter heilmannii*" from a Cynomolgus Monkey Induces Gastric Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphomas in C57BL/6 Mice. *Infect Immun* 75 : 1214-1222, 2007.
5. Shimoyama T, Yamaguchi S, Takahashi K, Ito E, Seki H, Ushikawa K, Katahira H, Yoshimoto K, Ohno H, Nagamatsu S, Ishida H: Gliclazide protects 3T3L1 adipocytes against insulin resistance induced by hydrogen peroxide with restoration of GLUT4 translocation. *Metabolism* 55 : 722-730, 2006.

## 高齢医学教室

### Geriatric Medicine

1. Jiro Okochi<sup>1</sup>, Kenji Toba<sup>2</sup>, Tai Takahashi<sup>3</sup>, Kozo Matsubayashi<sup>4</sup>, Masanori Nishinaga<sup>5</sup>, Ryutaro Takahashi<sup>6</sup>, and Takashi Ohru<sup>7</sup> (<sup>1</sup>Hara-doi Hospital, Japan Department of Clinical Research, Fukuoka, <sup>2</sup>Department of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, Mitaka, <sup>3</sup>Department of Medicine and Welfare, International University of Medicine and Welfare, Otawara, <sup>4</sup>Center of South-east Asia, Kyoto University, Kyoto, <sup>5</sup>Department of Medicine and Geriatrics, Kochi Medical School, Kochi, <sup>6</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, and <sup>7</sup>Department of Medicine, Tohoku University, Sendai, Japan) : Simple screening test for risk of falls in the elderly. *Geriatr Gerontol Int* 2006 ; (6) ; 223~227, 2006.
2. Reiko Kikuchi, Satoru Mochizuki, Masahiko Shimizu, Noriko Sudoh, Koichi Kozaki, Masahiro Akishita<sup>1</sup>, Kenji Toba (<sup>1</sup>Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Japan) : Elderly patient presenting with severe thyrotoxic hypercalcemia. *Geriatr Gerontol Int* 2006 ; (6) ; 270~273, 2006.
3. Hang Xi, Masahiro Akishita<sup>1</sup>, Kumiko Nagai, Wei Yu, Hiroshi Hasagawa, Masato Eto<sup>1</sup>, Kenji Toba (<sup>1</sup>Department of Geriatric Medicine, University of Tokyo) : Potent free radical scavenger, edaravone, suppresses oxidative stress-induced endothelial damage and early atherosclerosis. *Atherosclerosis* 191 ; 281~289, 2007. Feb.
4. Son BK, Kozaki K, Iijima K, Eto M, Kojima T, Ota H, Senda Y, Maemura K, Nakano T, Akishita M, Ouchi Y. Statins Protect Human Aortic Smooth Muscle Cells From Inorganic Phosphate-Induced Calcification by Restoring Gas6-Axl Survival Pathway. *Circ Res.* 2006 ; 98 : 1024-31.
5. Son BK, Kozaki K, Iijima K, Eto M, Nakano

## 2. 医学部・医学研究科

T, Akishita M, Ouchi Y : Gas6/Axl-PI3K/Akt pathway plays a central role in the effect of statins on inorganic phosphate-induced calcification of vascular smooth muscle cells. *Eur J Pharmacol.* 2007 ; 556 : 1-8.

## 精神神経科学教室

### Neuropsychiatry

1. Nakajima T : The effect of arachidonic acid on the change of activity by aging. *J Int Soc Life Inf Sci* 24, 92-93, 2006.
2. Hiroki M<sup>1</sup>, Uema T<sup>2</sup>, Kajimura N, Ogawa K, Nishikawa M, Kato M, Watanabe T, Nakajima T et al. (<sup>1</sup>Kyoto Univ, <sup>2</sup>Osaka Univ) : Cerebral white matter blood flow is constant during human non-rapid eye movement sleep : a positron emission tomographic study. *J Appl Physiol* 98, 1846-54, 2005.
3. Uchimura N<sup>1</sup>, Nakajima T et al. (<sup>1</sup>Kurume Univ) : Effect of zolpidem on sleep architecture and its next-morning residual effect in insomniac patients : A randomized crossover comparative study with brotizolam. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 30, 22-29, 2006.
4. Fusae K<sup>1</sup>, Nakajima T, Suzuki A<sup>1</sup>, Tanaka S, Simoyama T<sup>2</sup>, Handa K<sup>2</sup>, Asama I<sup>2</sup>, Koga Y, Ishida H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Faculty of Health Science, Kyorin Univ, <sup>2</sup>3rd Dept of Internal Medicine, Kyorin Univ Sch of Med) : Actigraph-application for clinical situation. Amount of activity increase during sleep in type-2 diabetes mellitus patients. *J Int Soc Life Inf Sci* 24, 435-439, 2006.
5. Kito S, Koga Y : Visual hallucinations and amnesia associated with zolpidem triggered by fluvoxamine : a possible interaction. *Int Psychogeriatr* 18 : 749-751, 2006.

## 小児科学教室

### Pediatric

1. Yan K, Nakajo A, Ito N, Kurayama R, Sekine Y : Direct action of glucocorticoid and im-

- munosuppressant, mizoribine against defective nephrin biogenesis by restoring intracellular energy balance. 10th International Symposium of Nephrology at Montecatini, Montecatini, March 22–24, 2007.
2. Fukuhara D, Kanai Y<sup>1</sup>, Chairoungdua A<sup>1</sup>, Babu E<sup>1</sup>, Bessho F, Kawano T, Akimoto Y<sup>2</sup>, Endou H<sup>1</sup>, Yan K (<sup>1</sup>Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Anatomy Kyorin University School of Medicine) : Protein Characterization of Na<sup>+</sup>-Independent System L Amino Acid Transporter 3 in Mice : A Potential Role in Supply of Branched-Chain Amino Acids under Nutrient Starvation. *Am J Pathol* 170 : 888–898, 2007.
  3. Yan K : Is nephrin biogenesis a therapeutic target of immunosuppressants for proteinuria? (Invited lecture). 13<sup>th</sup> The Korean Society of Pediatric Nephrology Meeting, Seoul, October 21, 2006.
  4. Morimoto A, Ikushima S, Kinugawa N, Ishii E, Kohdera U, Sako M, Fujimoto J, Bessho F, Horibe K, Tsunematsu Y, Imashuku S for the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group : Improved outcome in the treatment of pediatric multifocal Langerhans cell histiocytosis. Results from the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group-96 Protocol Study. *Cancer* 107 : 613–619, 2006.
  5. Bessho F, The ITP Committee of the Japanese Society of Pediatric Hematology. 2nd International childhood ITP study Group (ICIS) Expert Meeting on “Critical issue and future research of ITP”, Yverdon, Switzerland, September 16–18, 2006.

#### 外科学教室 (消化器一般)

##### Surgery I

1. 跡見 裕 : 日本消化器病学の過去・現在・未来—第92回日本消化器病学大会 理事長講演, 北九州, 平成18年4月21日.
2. Sugiyama M, Izumisato Y, Abe N, Masaki T,

Mori T, Atomi Y : Pancreatic carcinoma that completely obstructs the Wirsung duct without dilatation of the main pancreatic duct. *J Gastroenterol Hepatol* 21 : 1154–1156, 2006.

3. Toshiyuki Mori, Masanori Sugiyama, Yutaka Atomi : Management of intrahepatic stones. *Best Practice and Research Clinical Gastroenterology*. 20 : 1117–1137, 2006.
4. Abe N, Yamaguchi Y, Takeuchi H, Izumisato Y, Yanagida O, Masaki T, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y (13rd Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine) : Key factors for successful en bloc endoscopic submucosal dissection of early stage gastric cancer using an insulation-tipped diathermic knife. *Hepatogastroenterology* 53 : 639–642, 2006.
5. Masaki T, Matsuoka H, Sugiyama M, Atomi Y : New Prognostic Markers in Submucosally Invasive Colorectal Carcinomas ? Clinical Implication of Tumor Budding. In : Muto T, Mochizuki H and Masaki T (Eds.) *Tumor Budding in Colorectal Cancer : Recent Progress in Colorectal Cancer Research*. New York, Nova Science Publishers, Inc., 2006. p. 139–150.

#### 外科学教室 (呼吸器・乳腺・甲状腺)

##### Surgery II

1. 呉屋朝幸, 奥石義彦 : 臓器がん 肺 Stage 診断の進歩と肺癌の臨床・研究. シンポジウム. 第65回日本癌学会学術総会. 横浜. 平成18年9月28–30日.
2. Imoto S, Wada N, Hasebe T, Kitoh T : Serum c-erbB-2 protein is a useful marker for monitoring tumor recurrence of the breast. the 29<sup>th</sup> Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, TX, USA December 14, 2006.
3. Asamura H, Goya T, Koshiishi Y, Sohara Y, Tsuchiya R, Miyaoka E ; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. How should the TNM staging system for lung cancer be

## 2. 医学部・医学研究科

- revised? A simulation based on the Japanese Lung Cancer Registry populations. *J Thorac Cardiovasc Surg.* 132 : 316-319, 2006.
4. Watanabe K, Nomori H, Ohtsuka T, Naruke T, Ebihara A, Oriyasa H, Yamazaki K, Uno K, Kobayashi T, Goya T: [F-18] Fluorodeoxyglucose positron emission tomography can predict pathological tumor stage and proliferative activity determined by Ki-67 in clinical stage IA lung adenocarcinomas. *Jpn J Clin Oncol* 36 : 403-409, 2006.
  5. Imoto S, Ochiai A, Okumura C, Wada N, Hasebe T: Impact of isolated tumor cells in sentinel lymph nodes detected by immunohistochemical staining. *Eur J Surg Oncol* 32 : 1175-1179. 2006.
- 34回日本救急医学会総会. 2006. 10. 31. 福岡.
  3. 山口芳裕: ランチョンセミナーIV「アルカリ化剤を見直そう」. 第20回日本外傷学会. 2006. 5. 26. 名古屋.
  4. 山口芳裕, 島崎修次: パネルディスカッション8. DMAT (Disaster Medical Assistance Team). 第79回日本整形外科学会学術総会. 2006. 5. 20. 横浜.
  5. 杏林大学医学部救急医学, 電気通信大学電気通信学部システム工学科, 湘南工科大学電気電子工学科: 平成18年度消防防災科学技術研究推進制度研究課題「心肺蘇生中の心電図解析に基づく抽出波形の早期認知システムの開発」実施報告書. 2007. 3.

## 脳神経外科学教室

### Neurosurgery

- ### 小児外科学教室
- #### Pediatric Surgery
1. 葦澤融司, 伊藤泰雄, 浮山越史, 渡辺佳子, 志関孝夫, 種村比呂子: 食道異物の治療について: 内視鏡的に除去するか, バルーンで除去するか. *小児外科* 38 : 271-272, 2006.
  2. 伊藤泰雄: 耳前瘻孔切除術. *小児外科* 38 : 1467-1469, 2006.
  3. 浮山越史, 伊藤泰雄, 葦澤融司, 渡辺佳子, 種村比呂子: 小児救急診療におけるリスクマネージメント—小児外科医の立場から—. *日腹部救急医学会雑誌* 26 : 735-740, 2006.
  4. 浮山越史, 伊藤泰雄, 葦澤融司, 渡辺佳子, 種村比呂子: 口径差のある小腸小腸吻合: 乳児への functional end-to-end anastomosis. *日本小児外科学会雑誌* 43 : 13-17, 2007.
  5. 伊藤泰雄: 胎児・新生児の消化管の発達 (新生児の便). *周産期医学* 36 : 429-430, 2006.
- ### 救急医学教室
- #### Emergency Medicine
1. Yamaguchi Y: 司会. The 8<sup>th</sup> Asia Pacific Conference on Disaster Medicine. 2006. 11. 20-22. Tokyo. Japan.
  2. 山口芳裕: ランチョンセミナー司会. 初期輸液の新戦略—基礎から臨床へのリレー—. 第
1. Nagane M: Predominant antitumor effect by fully human anti-DR5/TRAIL-R2 monoclonal antibodies in human glioma cells. 2006 International Brain Tumor Research and Therapy Meeting, California, April 28, 2006.
  2. 塩川芳昭: 動脈瘤・手術手技「基調講演」. 第65回日本脳神経外科学会総会, 京都, 平成18年10月19日.
  3. Tsubokawa T, Solaroglu I, Yatsushige H, Cahill J, Yata K, Zhang JH: Cathepsin and calpain inhibitor E64d attenuates matrix metalloproteinase-9 activity after focal cerebral ischemia in rats. *Stroke* 37 : 1888-1894, 2006.
  4. Sato E, Konishi Y, Shimada A, Komatsubara K, Yazaki H, Fujitsua M, Shiokawa Y: Applications and roles of coil embolization and/or clipping in the treatment of cerebral aneurysm. *Interventional Neuroradiology* 12 : 53-56, 2006.
  5. Balasingam V<sup>1</sup>, Amderson GJ<sup>2</sup>, Gross ND<sup>3</sup>, Cheng C-M<sup>4</sup>, Noguchi A, Dogan A<sup>2</sup>, McMenomey SO<sup>2</sup>, Delashaw JB Jr<sup>2</sup>, Andersen PE<sup>2</sup>: Anatomical analysis of transoral surgical approaches to the clivus. *J Neurosurg* 105 : 301-308, 2006.



### 心臓血管外科学教室

#### Cardiovascular Surgery

1. 樋口和彦, 須藤憲一: 胸部大動脈瘤に対するステントグラフト挿入術とオープンステントグラフト法. 杏林医会誌 37: 16~20, 2006.
2. 須藤憲一: 大血管疾患救急診療についてのアンケート調査結果. ICUとCCU 30: 10, 858~862, 2006.

### 整形外科科学教室

#### Orthopedic Surgery

1. 里見和彦: (教育研修講演) 腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療. 第79回日本整形外科学会, 横浜, 平成18年5月18-21日.
2. 里見和彦, 市村正一: 化膿性脊椎炎の診断. MB Orthop 19: 1-7, 2006.
3. 林 光俊, 石井良章, 里見和彦, 本谷啓太: アキレス腱断裂の保存治療—三次元MRIによる経時的経過. 整・災外 49: 907-911, 2006.
4. 河合 大, 宝亀 登, 里見和彦: 頸椎椎間板ヘルニアに対するレーザー椎間板減圧術の治療成績. 東日本整災会誌 19: 101-105, 2007.
5. Uchikura C, Hirano J, Kudo F, Mochizuki K, Suzuki K, Satomi K: Reconstruction using bone lengthening of the residual digit after amputation for the treatment of digit malignant tumors. J Orthop Sci 11: 212-216, 2006.

### リハビリテーション医学教室

#### Physical Medicine & Rehabilitation

1. 山田 深: (教育講演) FIMの効能と限界. 第1回日本リハビリテーション医学会専門医学学術集会. 平成18年11月, 東京.
2. 原田貴子, 岡島康友: 書字運動の三次元解析—健常者と軽症片麻痺者において. 臨床脳波 48: 230-235, 2006.
3. 岡島康友: 医学と工学の連携—リハビリテーション医学の立場から—. リハビリテーションMOOK 15巻: リハビリテーション工学と福祉機器. 千野直一・安藤徳彦編. 東京, 金

原出版, 2006. p. 55-61.

4. 山田 深, 辻 哲也, 渡辺真純: 肺癌, 縦隔腫瘍, 胸腺腫 リハの要点. 悪性腫瘍のリハビリテーション. 里宇明元・木村彰男・辻哲也編. 東京, 金原出版, 2006. p 176-188.
5. 山田 深, 岡島康友: 高齢者のリハビリテーション. 最新整形外科学体系25巻: 高齢者の運動器障害. 越智隆弘・中村利孝編. 東京, 中山書店, 2007. p 250-257.

### 皮膚科学教室

#### Dermatology

1. Shiohara T: Relationship between viral reactivation and drug hypersensitivity. The 2nd International Drug Hypersensitivity Conference. Liverpool, April 20th, 2006.
2. Shiohara T: A link between the pathogenesis and clinical aspects of drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS/DRESS). The 7<sup>th</sup> International Congress on Cutaneous Adverse Drug Reactions. Satellite Congress of the 36th Annual Meeting of European Society for Dermatological Research. Paris, Sep. 6th, 2006.
3. Katsuta M, Takigawa Y, Kimishima M, Inaoka M, Takahashi R<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Div. of Flow Cytometry): NK cells and  $\gamma\delta^+$  T cells are phenotypically and functionally defective due to preferential apoptosis in patients with atopic dermatitis. J Immunol 176 (12): 7736-7744, 2006.
4. Kano Y, Hirahara K, Sakuma K, Shiohara T: Several herpesviruses can reactivate in a severe drug-induced multiorgan reaction in the same sequential order as in graft-versus-host disease. Br J Dermatol 155 (2): 301-306, 2006.
5. Kano Y, Teraki Y, Shiohara T: Dramatic improvement of psoriatic erythroderma after acute hepatitis: analysis of cytokine synthesis capability in peripheral blood T cells. Br J Dermatol 155 (2): 455-459, 2006.

## 形成外科学教室

Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery

1. Harii K, Asato H, Takushima A: Midface reconstruction. Plastic Surgery 2nd Ed. (Mathes, S. ed.). Vol 3, Saunders-Elsevier, Philadelphia, 2006. p 859-882.
2. Takushima A, Harii K, Asato H, Momosawa A, Okazaki M: One-stage reconstruction of facial paralysis associated with skin/soft tissue defects using latissimus dorsi compound flap. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 59: 465-473, 2006.
3. Okazaki M, Hisatomi T, Sarukawa S: Aesthetic upper lip reconstruction with vermilion submucosal-pedicle cross-lip flap. J Craniofac Surg 17: 1259-1262, 2006.
4. Ohura N, Kurita T, Takushima A, Shibata M, Harii K: Efficacy of a skin-protection powder for use as a dressing for intractable ulcers. J Wound Care. 15: 471-2, 474-6. 2006.
5. Kurita M, Ichioka S, Oshima Y, Harii K: Orthopaedic POSSUM scoring system: an assessment of the risk of debridement in patients with pressure sores. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg. 40: 214-8, 2006.

## 泌尿器科学教室

Urology

1. Okegawa T, Kinjo M, Nutahara K, Higashihara E: Pretreatment serum level of HER2/neu as a prognostic factor in metastatic prostate cancer patients about to undergo endocrine therapy. Int J Urol 13: 1197-1201, 2006.
2. Okegawa T, Odagane A, Nutahara K, Higashihara E: Laparoscopic management of urachal remnants in adulthood. Int J Urol 13: 1466-1469, 2006.
3. Ohashi M<sup>1,4</sup>, Kobayashi A<sup>2</sup>, Hara H, Miura Y<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>1</sup>, Kushida M<sup>2</sup>, Ikarashi Y<sup>3</sup>, Mandai M<sup>5</sup>, Kitajima M<sup>4</sup>, Yoshida T<sup>1</sup> & Aoki K<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Genetics Division, National Cancer Center Research Institute, <sup>2</sup>Section for Studies on

Host-Immune Response, National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>Pharmacology Division, National Cancer Center Research Institute, <sup>4</sup>Department of Surgery, Keio University School of Medicine Tokyo, <sup>5</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, Kyoto University Hospital) : Allogeneic MHC Gene Transfer Enhances Antitumor Activity of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation without Exacerbating Graft-versus-Host Disease. Clin Cancer Res 12 (7 Pt 1) : 2208-2215, 2006.

4. Hara H, Kobayashi A<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>2</sup>, Ohashi M<sup>2</sup>, Ohnami S<sup>2</sup>, Uchida E<sup>3</sup>, Higashihara E, Yoshida T<sup>2</sup> & Aoki K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Section for Studies on Host-Immune Response, National Cancer Center Research Institute, <sup>2</sup>Genetics Division, National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School) Local interferon- $\alpha$  gene therapy elicits systemic immunity in a syngeneic pancreatic cancer model in hamster. Cancer science 98 (3) : 455-463, 2007.
5. Okegawa T, Pong RC<sup>1</sup>, Nutahara K, Higashihara E & Hsieh JT<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, The University of Texas Southwestern Medical Center) : A histone deacetylase inhibitor enhances adenoviral infection of renal cancer cells. J Urol. 177 (3) : 1148-56, 2007.

## 眼科学教室

Ophthalmology

1. Okada AA: Symposium, "Behcet's Disease," Asia-Pacific Ophthalmology Society Meeting, Singapore, June 11, 2006.
2. Hida T: Special Lecture, Changes and advances of retinal microsurgery. The 23rd Congress of Pan-Pacific Surgical Association JAPN CHAPTER. Bangkok, October 20-22, 2006.
3. Okada AA. Behcet's disease: Current concepts and recent advances. Current Opinions in Ophthalmology. 17: 551-556, 2006.

4. Yamaguchi Y, Watanabe T, Hirakata A, Hida T: Localization and ontogeny of aquaporin-1 and -4 expression in iris and ciliary epithelial cells in rats. *Cell Tissue Res* 325: 101-109, 2006.
5. Hirakata A, Hida T: Vitrectomy for myopic posterior retinoschisis or foveal detachment. *Jpn J Ophthalmol* 50: 53-61, 2006.

#### 耳鼻咽喉科学教室

Otolaryngology—Head and Neck Surgery

1. Kohno N, Yamauti K, Kogashiwa Y, Nagafuji H, Nagai K, Tsubosaka T, Matsuda T, Tsutsumi T, Maruyama T, Nishiya M: Mini Symposium. Organ function preserving therapy for the advanced hypopharyngeal and laryngeal cancer patients. The 23<sup>rd</sup> PPSA-JC, Oct. 20-22, 2006, Bangkok.
2. Yamauchi K, Ohno Y, Nagafuji H, Tsubosaka T, Kogashiwa N, Kohno N: Mini Symposium. Supracricoid Partial Laryngectomy After Failed Laryngeal Radiation Therapy. The 23<sup>rd</sup> PPSA-JC, Oct. 20-22, 2006, Bangkok.
3. Tsubosaka T, Tsutsumi T, Nagafuji H, Matsuda T, Kogashiwa Y, Yamauchi, Ohno Y, Maruyama T, Kohno N: Mini Symposium. Sentinel Lymph Node Navigation Surgery in Neck Node-Negative Oral Squamous cell Carcinoma Patients. The 23<sup>rd</sup> PPSA-JC, Oct. 20-22, 2006, Bangkok.
4. 甲能直幸: 頭頸部癌における化学療法の役割. *日本気管食道科学会会報* 57(2): 181-185, 2006.
5. 甲能直幸, 大野芳裕, 山内宏一, 小柏靖直, 長井恵一, 堤 知子, 壺坂俊仁, 永藤 裕, 松田雄大: 頭頸部領域における sentinel node 理論の意義—現況と展望. *リンパ学*. 30(1): 4-8, 2007.

#### 産科婦人科学教室

Obstetric & Gynecology

1. Iwashita M: Keynote lecture: Uterine artery Embolization for the treatment of uterine fi-

broid: long term follow-up study. 8<sup>th</sup> Annual Congress of the Asia Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy 2007. 3. 18, Osaka.

2. Takakuwa T, Mitsui T, Iwashita M, Kobayashi I, Suzuki A, Oda T, Torii Y, Matumoto M, Yahata G, Tanaka K: Studies on the prevalence of human papillomavirus in pregnant women in Japan. *J. Perinat Med* 34: 77-79, 2006.
3. Mochizuki T, Sakai K, Iwashita, M: Effects of insulin-like growth factor (IGF) binding protein-3 (IGFBP-3) on endometrial cancer (HHUA) cell apoptosis and EGF stimulated cell proliferation in vitro. *Growth Hormone & IGF Research* 16: 202-210, 2006.
4. Kato S, Hanabusa H, Kaneko S, Takkuwa K, Suzuki M, Kuji N, Jinno M, Tanaka R, Kojima K, Iwashita M, Yoshimura Y, Tanaka K: Complete removal of HIV-1 RNA and proviral DNA from semen by the swim-up method: assisted reproduction technique using spermatozoa free from HIV-1. *AIDS* 20: 967-973, 2006.

#### 放射線医学教室

Radiology

1. 似鳥俊明: Shall We Heart?—心臓画像診断へのお誘い—. *日本医学放射線学会教育講演*, 横浜市, 平成18年4月6日.
2. 似鳥俊明: 心臓疾患の画像診断. *日本医師会生涯教育協力講座“心不全の画像診断”*. *東京都医師会雑誌* 59巻893-910, 2006.
3. Tsuchiya K, Fujikawa A, Honya K, Tateishi H, Nitatori T: Value of diffusion-weighted MR imaging in acute cervical cord injury as a predictor of outcome. *Neuroradiology* 48: 803-808, 2006.
4. Yokoyama K, Nitatori T, Kanke N, & Suzuki S: Efficacy of cardiac MRI in the evaluation of ischemic heart disease *Magnetic Resonance in Medical Sciences (MRMS)* 5, 33-40, 2006.
5. 増田 裕, 楠田順子<sup>1</sup>, 西澤かな枝<sup>2</sup>, 高山

誠, 高橋修司, 森永圭吾, 岩元香保里, 似鳥俊明 (1東京通信病院放射線科, 2放射線医学総合研究所): 子宮動脈塞栓術における被ばく線量の検討 臨床例における皮膚表面線量測定と人体型ファントムによる骨盤内臓器吸収線量測定を基に. 日本画像医学雑誌(0289-0925) 24巻3~4: 141-151, 2006.

### 麻酔科学教室

#### Anesthesiology

1. 飯島毅彦: セボフルランの新たな可能性 シームレスな麻酔. 第26回日本臨床麻酔学会. 平成18年10月26日. 旭川.
2. 窪田靖志: 杏林大学における緩和ケア最近3年間の歩み. 第11回三多摩緩和ケア研究会. 平成18年11月18日. 武蔵野.
3. Iijima T, Mishima T, Akagawa K, Iwao Y: Neuroprotective effect of propofol against acute neuronal death and subsequent apoptosis following oxygen-glucose deprivation in rat cultured hippocampal neurons — Relationship between mitochondrial membrane potential and mode of death. *Brain Res* 1099, 25-32, 2006.
4. 飯島毅彦, 清水 勝, 萬 知子, 巖 康秀: 麻酔科医の血液製剤の適正基準に対する意識調査—全国麻酔指導病院を対象としたアンケート調査 *麻酔* 55: 1282-1294. 2006.
5. 窪田靖志: 麻酔器の保守点検の要点と耐用年数. *麻酔科診療プラクティス* 19 *麻酔器・麻酔回路*, 岩崎寛, 東京, 文光堂, 2006, p. 74-77.

### 臨床検査医学教室

#### Laboratory medicine

1. Kishino T, Haradome H, Mori H, Takahashi S, Ishida H & Watanabe T: Choledochocoele demonstrated on conventional sonography. *J Clin Ultrasound* 34: 199-202, 2006.
2. Ohnishi H, Ohtsuka K, Ooide A, Matsushima S, Goya T & Watanabe T: A simple and sensitive method for detecting major mutations within the tyrosine kinase domain of the epi-

dermal growth factor receptor gene in non-small-cell lung carcinoma. *Diagn Mol Pathol* 15: 101-108, 2006.

3. Ohnishi H, Kandabashi K, Maeda Y, Kawamura M & Watanabe T: Chronic eosinophilic leukaemia with FIP1L1-PDGFR $\alpha$  fusion and T6741 mutation that evolved from Langerhans cell histiocytosis with eosinophilia after chemotherapy. *Br J Haematol* 134: 547-549, 2006.
4. Ohtsuka K, Ohnishi H, Furuyashiki G, Nogami H, Koshiishi Y, Ooide A, Matsushima S, Watanabe T & Goya T: Clinicopathological and biological significance of tyrosine kinase domain gene mutations and overexpression of epidermal growth factor receptor for lung adenocarcinoma. *J Thorac Oncol* 1: 787-795. 2006.
5. Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M, Kishino T, Matsushima S, Furuyashiki G, Takei H, Koshiishi Y, Goya T & Watanabe T: Abnormalities of epidermal growth factor receptor in lung squamous-cell carcinomas, adenosquamous carcinomas, and large-cell carcinomas: tyrosine kinase domain mutations are not rare in tumors with an adenocarcinoma component. *Cancer* 109: 741-750 2007.

### 総合医療学教室

#### General Medicine

1. Taro Kuwai, Junichi Hayashi: Nitric oxide pathway activation and impaired red blood cell deformability with hypercholesterolemia, *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*, Vol. 13 No. 6, p. 286-294, 2006.

### 医療管理学教室

#### Department of Health Care Administration

1. Ueno C, Fukatsu K, Kang W, Maeshima Y, Nagayoshi H, Omata J, Saito H, Hiraide H, Mochizuki H.: Lack of enteral nutrition delays nuclear factor kappa B activation in peritoneal exudative cells in a murine glycogen-

induced peritonitis model. JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2006 May-Jun; 30 (3) : 179-85.

### 化学教室

#### Chemistry

1. Ushimaru, M. and Fukushima, Y: Synthesis of ATP by the simple addition of ADP to the p-nitrophenyl-phosphate-prepared phosphoenzyme of the sarcoplasmic reticulum  $Ca^{2+}$ -ATPase Biochem. Biophys. Res. Comm., 353 : 799~804, 2007.
2. Fukushima, Y. and Ushimaru, M : ATP加水分解の生化学的熱力学への提言 Proposal on the Thermodynamics of ATP Hydrolysis for a Biochemical Understanding 杏林大学研究報告 教養部門, 24 : 1~10, 2007.
3. Yamamoto S, Wakayama M, Tachiki T : Characterization of theanine-forming enzyme from *Methylovorus mays* No. 9 in respect to utilization of theanine production Biosci. Biotechnol. Biochem. 71 : 545-552, 2007.

### 物理学教室

#### Physics

1. 高原哲士, 田嶋直樹, 清水良文 : 核変形における prolate 優勢の起源. KEK 原子核研究会「現代の原子核物理」. 2006年8月. つくば
2. Nishiwaki Y, Hasegawa T, Machida K & Takeuchi Y : Elastic Properties of Distorted

Triangular Lattice  $KNiCl_3$ -Family Compounds. J Phys Soc Jpn 75 : 094710-1-5, 2006.

### 実験動物施設部門

#### Institute of Laboratory Animals

1. Osaki T, Hanawa T, Manzoku T, Fukuda M, Kawakami H, Suzuki H, Yamaguchi H, Yan X, Taguchi H, Kurata S & Kamiya S. Mutation of luxS affects motility and infectivity of *Helicobacter pylori* in gastric mucosa of a Mongolian gerbil model. J. Med. Microbiol., 55 : 1477-85, 2006.
2. Kamiya S, Takahashi M, Manzoku T, Oka K, Osaki A Hanawa T, Kurata S & Taguchi H. Probiotics and *Helicobacter pylori* infection. Microbial Ecology in Health and Disease. 18 : 177-180, 2006.
3. Kobayashi F, Waki S, Niikura M, Tachibana M, Tsuboi T, Torii M & Kamiya S. *Plasmodium berghei* XAT : protective 155/160 kDa antigens are located in parasitophorous vacuoles of schizont-stage parasite. Exp Parasitol. 116 : 450-7, 2007.
4. Kobayashi F, Niikura M, Waki S, Matui T, Fujino T, Tsukahara T & Kamiya S. *Plasmodium berghei* XAT : Contribution of  $\gamma\delta$ T cells to host defense against infection with blood-stage nonlethal malaria parasite. Exp. Parasitol. In press. 2007.

#### 4) 医学部倫理委員会について

医学部倫理委員会は、医学部及び医学部附属病院で行われるヒトを対象とした研究及び医療について、医の倫理に関する事項をヘルシンキ宣言の趣旨に添って検討し、審議することを目的として設置されている。委員長は医学部長、その他、附属病院長、附属病院看護部長、医学部の基礎・社会医学系の教授のうちから2名、臨床医学系の教授のうちから2名、医学分野以外の学識経験者として、保健学部長、総合政策学部長、外国語学部長、さらに弁護士1名に委員を委嘱しており、合計11名の委員で構成されている。委員の任期は2年。学長は委員会のオブザーバーとなっている。委員会は8月を除いて毎月1回、通常は第3月曜日に開催される。平成18年度には合計59件の申請があり、56件が承認されている。